

平成28年度事業計画書

平成28年2月4日

公益財団法人 名勝依水園・寧楽美術館

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）事業計画の概要

平成15年より開設した「名勝依水園整備委員会」の指導に基づいた庭園整備事業は平成28年度で完了する。今年度の補助金事業（事業期間は平成28年6月～平成29年3月）（2,610万円（うち自己負担522万円）見込み）により、当面最後の庭園修復整備および建物修復整備を予定している。このうち老朽化した排水管の交換と、豪雨対応の排水路の改修を平成29年1月から2月末に行う、このため平成29年1月は休園の予定である。

美術館では、4月1日より9月11日まで企画展として「花よ鳥よ」―吉祥文に込めた思い―を開催する。多くの美術品にあらわされた花や鳥のモチーフは、ただ美しいだけでなく、そこには幸せを願う人々の願いが込められていた。館蔵品の華やかな文様の世界から、作風が異なる各国の表現と感性を感じて頂く。

館蔵中国古印の調査結果を順次公開する特設コーナーでは、中国の印章「封泥と印譜」―印章蒐集から研究に至る過程―というテーマで展示を行う。

4月1日より14日までは重要文化財『亦復一楽帖』第六図「風雨夕掩門」を特別陳列する。

10月1日から12月11日までは、企画展として、「奈良さらし展」（仮称）を開催する。奈良県立民族博物館の横山浩子氏の企画により、奈良晒しの「南都」印の押された布片収集家である近世麻布研究所の吉田慎一郎氏の蒐集を展示する。実行委員会（中川政七商店・岡井商店・坂西商店等）を立ち上げ、文化庁から補助金を予定している。

11月1日より14日までは重要文化財『亦復一楽帖』第七図「順風張帆」を特別陳列する。

暫く当財団では、館蔵品の他館への貸し出しを行っていなかったが、「宋拓 晋唐小楷帖」を大阪市立美術館で4、5月に開催される特別展「王羲之から空海へ」に貸し出す。

従来から美術館内の照明のLED化を進めて来たが、一部展示ケースについては、LEDに必要な機能を満たすものがなく、蛍光灯照明のままであった。平成28年度は、新しいLEDにより、これら蛍光灯をLED化し、すべての照明をLED化する。この工事のため平成29年1月から3月の間、美術館は休館予定である。

平成20年5月に設立された「寧楽（なら）と依水園を愛でる会」（メンバーは依水園を支援する、県内大学関係者、元県観光関係者、元マスコミ関係者等）と財団との共催で、「依水園文化講演会」を、昨年度に続き今年度も2回開催の予定である。

6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も継続する。また今年度はこの日

に当財団敷地内茶室の三秀亭で煎茶を体験して頂くイベントを企画中である。これは三秀亭が本来煎茶用の茶室であったことに基づくものである。

平成 25 年より例年 2 月に奈良市主催で開催されている珠光茶会開催期間中、園内の茶室を公開する「依水園お茶室見学会」を開催している。通常公開していない建物内部を見学できる機会として好評を得ているので、これを今年度も開催する。

庭師の人材育成の為に開講している「庭園大研究会」を今年度も継続して開催する。

今後も公益財団法人として公開収入の増額を目指すとともに、魅力ある観光スポットとして前向きに企画をたてて大勢の入園・入館者に喜んでいただけるように努めたい。

以上